



- 清音駅より自転車を使って堤防決壊場所及び浸水域を視察した。気になったことは
- ①小田川河川敷は木が自生して森のようである
 - ②小田川と高梁川合流点の小田川の川幅が狭くなっている
 - ③合流点の高梁川の流が右に折れ曲がり川幅が狭くなっている
 - ④決壊・越水箇所は小田川に合流する支流にも発生
 - ⑤小田川は天井川で合流点海拔12mに対し真備町内10mである
 - ⑥両川の流域の72時間降水量は300mmを越えている
 - ⑦ハザードマップは2年前に作成され周知不足
 - ⑧避難指示が出たのが真夜中で高馬川(真備駅そば)決壊の4分前
 - ⑨6日19時には高梁川危険水位8mを超えた ダムは全量放流
 - ⑩緊急速報メールは小田川右岸決壊は流したが左岸決壊は流していない



⑤合流点海拔12m、真備町内10m

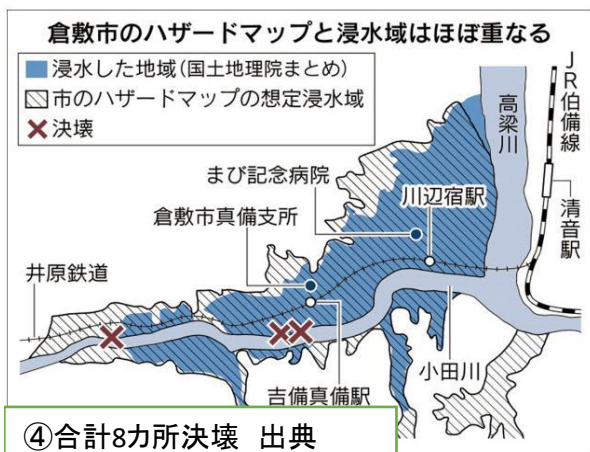
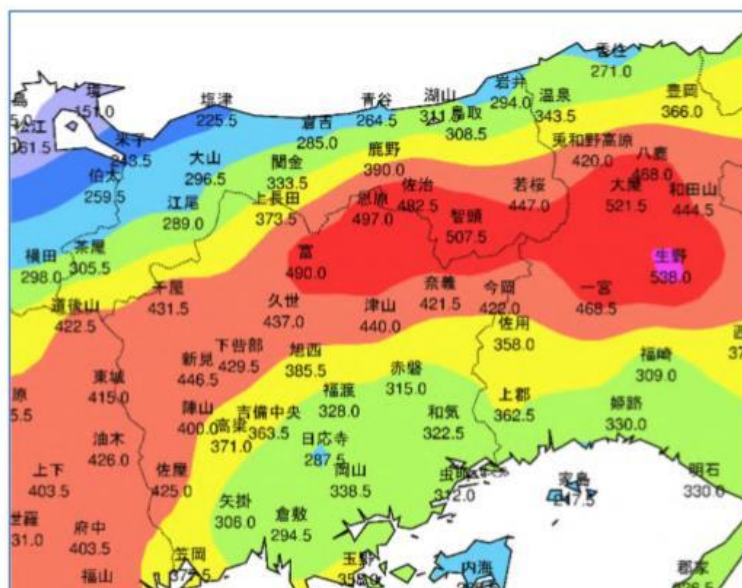
豪雨を巡る倉敷市や国の動き

6日 午後	10時	市が真備町地区全域に避難勧告
	10時40分	気象庁が倉敷市に大雨特別警報発表
	11時45分	市が同地区の小田川南側に避難指示
7日 午前	1時30分	市が同地区の小田川北側に避難指示
	1時34分ごろ	国土交通省が高馬川で堤防決壊を確認
	6時52分ごろ	国土交通省が小田川で堤防決壊を確認

⑧



○アメダス期間降水量(7月3日00時~8日24時)



④合計8カ所決壊 出典

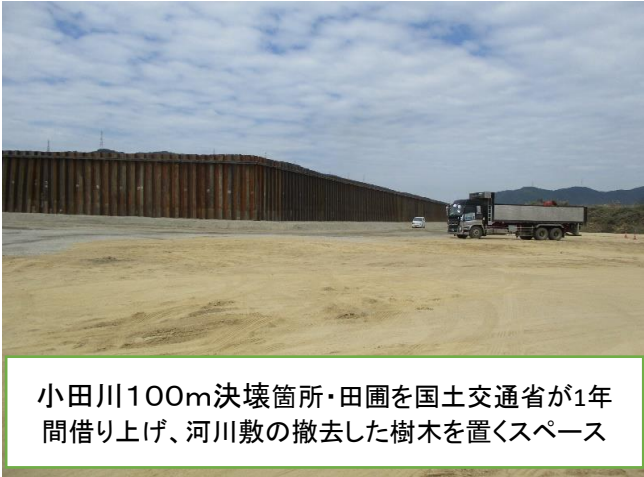


川辺地区側排水ポンプ

海拔の差が
写真で分る



高馬川への排水



小田川100m決壊箇所・田圃を国土交通省が1年間借り上げ、河川敷の撤去した樹木を置くスペース



高馬川決壊箇所



小田川100m決壊箇所



川辺地区4. 8m浸水(全戸避難生活)



水稲とブドウは全滅



”置くな”の看板がいたるところにあるが置かれている





1か月が過ぎても壁(断熱材含む)やフローリングがそのまま。
内装を取ると黒いカビが全面に見えた。
解体技術のある大工さんが必要